

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価					
よく考え、工夫する子ども（確かな学力） 人やものにやさしい子ども（豊かな心） 進んで取り組み、やりぬく子ども（自主自立）	笑顔あふれる 中塩田の子 【一人になれる 一つになれる】			保護者の方からは子どもたちが「前向きに学校へ通っている点」、「意欲的に授業に参加し学ぼうとしている点」、「学校が人権に配慮した授業や学校生活を送る場になっている点」について肯定的な評価を得ている。子どもたちの人権を尊重し、主体性を重視した本校の教育活動が、子どもたちや保護者の方々に実感を伴った成果として感じてもらえているのではないかと考えられる。 昨年度同様、保護者の方や児童の自己評価から、家庭でのゲームやスマホなどの取り扱い方やルールについて課題が見られる傾向が強くなっている。学校では継続して、ゲームやスマホ、情報端末機器との関わり方やルールなどの取り組み・外部講師やＩＣＴ支援員によるネットリテラシーに関する授業を低学年から継続しておこなっていく。					
	今年度の重点目標			成果と課題				改善策・向上策	
	①	よく聴いて、自分の思いを表現できる子（話す・かく）		○聴く場面と表現する場面を明確にしたことで、よく聴いて考える子どもが増えてきた。また振り返りの時間を十分とることで、自分の考えを表現（書く）ことができる子どもも増えてきた。 ●長い文章からの読み取りなど、文意をとらえる力が不十分である。 ●書くことへの抵抗感があり、思いや考えを文章で表現することが難しい子どもも少なくない。			○		・読書量を増やし、文章に慣れ親しむとともに、積極的に辞書を活用し語彙力を高めていきたい。
	②	自分から挨拶し、相手も大切にする子（温かい言葉・思いやり）		○地域の方に元氣よく挨拶ができる子どもが多い。 ○全年ととも、困っている友だちにたいして「どうしたの 大丈夫」などの声がけしたり、助けてあげたりしようとする子どもが多い。 ●大人から挨拶すると、挨拶を返してくれが、自分から挨拶するという点では不十分な点も見られる。			○		・教職員からの地道な声がけや模範的な姿を示すことにより、習慣づけたい。 ・児童会による挨拶運動やなかよし旬間の取り組みなど、子どもたちから発信して取り組めるような活動を充実させる。
	③	友と協力し合い、作業や活動に根氣よく取り組む子（黙々活動）		○与えられた自分の仕事（個々の取り組み）を一生懸命に取り組める子どもが多い。 ●清掃活動に、きれいに使用という意識をもって時間いっぱい取り組む点では課題が見られる。			○		・清掃活動は、学年の発達段階に応じて、取り組むためのめあてを与えていく。 ・児童会活動とリンクさせ、ペアやグループで活動する良さを実感できるような場面を意識的に設定していく。

領域	対象	評価の観点		評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
重点目標	①	A わかりやすい板書	「ねらい」や「まとめ」を板書に位置づけ、授業の流れが分かる板書を心がけているか。	アイウエオ	○授業の流れや、今取り組んでいる場所がどの子どもにも分かるような視覚的支援を心がけ、授業を行った。 ●まとめの時間（自分の言葉でまとめる時間）の確保が徹底できない。			○		・ICT機器と黒板を効果的に使用していく。 ・学年に応じた、まとめる力を身に付けるため、ねらいが明確な授業づくりに取り組んでいく。
		B ふり返りの時間の確保	ふり返りや発表の場を位置づけ、子ども自らが学びの成果を実感できる工夫をしているか。	アイウエ	○学習の区切りや単元のまとめだけに限らず、通常の授業でもふり返りの時間を意識的に設ける事により、自分の理解がどうだったかふりかえることができる子どもが増えた。 ●振り返りの場面を十分にとれない時があった。			○		・よりふり返りがしやすく、見返したときに今日の授業が分かるようなふり返しシートの作成。 ・時間に余裕をもって進めていけるよう授業改善に努める。
		C 家庭学習の充実	家庭学習の手びきをもとに、家庭と連携した家庭学習や自主学習の充実にも努めているか。	アイウエ	○宿題に、丁寧に取り組める子どもが多い。 ●宿題の提出率はよいが、自主学習の内容に個人差が大きい。			○		・子どもたちが主体的に取り組める家庭学習のあり方や内容について検討していきたい。 ・自主学習の意義や内容について確認し、自主学習を意識づけさせたい。
	②	D 楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切にし、安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	アイウエオ	○日頃からの声がけにより、安全な生活を心がける子どもたちが増えてきている。 ●全校集会など全校で集まる機会が増えてきたが、場に応じた態度や姿勢が十分にできない子どももいる。			○		・年度当初を中心に、けじめある学校生活を過ごせるための習慣づけを学校や児童会活動として仕組みたい。 ・「姿勢が悪い」と感じる保護者が約6割弱おり、学校と保護者での共通認識や取り組みが必要ではないか。
		E 異年齢の友だちとの活動	異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	アイウ	○なかよしタイムを楽しみにしている子どもが多い。 ○上級生が下級生と関わる事で、上級生としての自覚と責任が培われている。		○			・継続した取り組みを行う。 ・上級生の姿から、下級生の子どもたちが自分自身の友との関りにつなげていけるような声がけをしていきたい。
		F 交流活動の充実	地域の方々や園児、福祉施設の方々等と関わり合えるような活動に取り組んだか。	アイウオ	○金管バンドクラブでは、交歓演奏会や地域のお祭りでの発表の機会があったことにより、子どもたちの達成感につながった。 ○来入児交流では、意欲的に取り組むことができた。 ●地域の方との交流機会が不十分。			○		・社会状況や交流時期（感染症流行期を避ける等）を考えながら、外部との交流が増えていくように考えていきたい。
	③	G よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	アイウ	○課題や目標を明確に与えることで、自ら進んで行動しようとする子が多い。 ●自分から課題に気づき、進んで取り組んでいこうとする姿は不十分。			○		・子どもたちに任せる場面を意識的に設け、また、教師側も展開を待てるようにしていく。 ・日頃から、自ら行動できた仲間の姿を学級内でも共有していく。
		H 体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳び等、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	アイウ	○マラソン月間中には、児童会が作成したマラソンカードに色塗りをすることで意欲が増し、毎日継続して校庭を走る姿が見られる。 ○冬場、雪も少なかったので、外で遊んだり活動したりすることができた。			○		・体力向上のための目標や取り組みをクラスで設定していきたい。 ・スポーツテストなどを通して、自分の体力について知り、体を動かすことのよさについて意識させていきたい。
		I 仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花づくり等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	アイウエ	○児童会の当番活動に責任をもって取り組める子どもが多い。 ○仕事に意欲的な姿を認められることで、さらに前向きに取り組んでいる。 ○清掃を一生懸命取り組んでいる子どもが多い。		○			・一人一人に具体的な役割を与え、責任を持って取り組めるようにする。 ・仕事に対する考えが自分事になるように意識づけしていく。
学校運営	地域との連携	J 学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	アイオ	○学習ボランティアの方々のおかげで、復習の機会が確保できている。 ○読み聞かせの時間は年数回ではあるが、貴重な時間を過ごすことができています。 ○1年生の給食やそうじの支援、校外学習の引率等、多くのボランティアの方々に協力いただいた。			○		・より広く募集し、子どもたちとの交流を深めていきたい。
	学習指導	K 授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができたか。	アイウオ	○長野大学の先生の継続的な指導により、学校全体でUD化の3観点や授業づくりに取り組むことができた。 ○多くの公開授業を校内で見せてもらったことで、授業だけでなく、教室環境を整える意識が、教師と子どもたち共にについてきている。			○		・互いの授業を見合うことは、教師自身の学びに繋がっているのを、継続していく。 ・公開授業に限らず、普段から自由に授業を見合える環境を整えていく。
	研修	L 職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にするために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	アイ	○地域ボランティアによる地域の歴史を学ぶ地域研修、図工科による陶芸教室など、授業に生かすことができる研修を行うことができた。 ●ICTの扱いや活用方法に個人差があるので、定期的な研修を行いたい。			○		・職員研修の時間を定期的に確保し、職員の指導力向上に努めていく。
	生徒指導	M いじめへの対処	いじめを防止し、いじめがおきた際、適切に対処することができているか。	アイウエオ	○事案に対しての迅速な対応を心がけ、1件1件について個別に対応したことで保護者の方と連携が取れた。 ●予防的な対応について、さらに考えていきたい。			○		・日ごろから、一人一人の良さをみんなで認め合える学級づくりをしていく。 ・なんでも話せる学校体制や人間関係を築いていく。 ・引き続き、保護者との連携を密にしてい